

が國に其の名を傳へられて居ないやうである。(10)については目録の編者ペリオ氏が *poème par Fa-tch'eng* と記して居る。「法成譯」の文字の記された經に對しては、*traduit par Fa-tch'eng* として目録を取つて居るのに思ひ比べると、或は此の一卷は法成自身の作で、此の人の譯ではないことを示して居るのかとも思ふ。(9)には重要な序や奥書の存することが目録に見えて居る。即ち

*En tête. suscription indiquant que c'est*

*l'œuvre de Fa-tch'eng. à la fin, ce colophon :*

癸丑年八月下旬九於沙州永唐寺集畢記

と記され、而して編者ペリオ氏は其の末に考を附して

*D'après le colophon il semble donc que*

*Fa-tch'eng ait travaillé non seulement à*

*Kan-tcheou mais aussi à Cha-tcheou*

といふて居る。「集畢記」といふ文字については、自分は判然意味を解しかねるが、後の筆者が既存のものを寫したといふ如き意味では無く、法成自身に關する語であらうから、ペリオ氏の推斷も無理ではあるまい。果して然らば此の奥書の示す處は、啻に法成が沙州に於ても譯經の業に従事したことを知り得るに止まらず、別に彼の在世時代についても一箇の手掛りを提供するものといはねばなるまい。史林の解説にも述べた如く、ペリオ氏は法成が滅盡記を譯したのを第九世紀の初半と見、石濱君は法成の弟子の智慧山の在世時代から推して、その第九世紀半頃の在